

仙台空港の民間への運営委託に向けた課題等

平成24年2月 宮城県

項目	内容
プロジェクトの範囲 (新たな空港経営スキームの検討)	<p>○空港の資産価値・付加価値の向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・県などが協力し、事業価値を上げる仕組みを作り上げる必要がある。 ・震災からの復興において世界から注目されているうちに、空港を中心とした都市構想などを打ち出すことが必要である。 <p>○プロジェクトの範囲と収支</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いかに民間投資を誘発し、地域開発を進めるかが課題である。 ・事例検討しながら、適切な規模を議論していく必要がある。 ・仙台空港の民間への運営委託(以下、民営化)と周辺開発をどう結びつけるかが課題である(事業の取扱い、収支等)。 ・仙台空港アクセス鉄道の取扱い(需要リスクの判断等) <p>○仙台港も含めた国際物流の拠点化の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの狙いを旅客増のみならず、国際物流の拠点化まで広げたほうが、波及効果は大きい。(定性面・定量面からの検討) ・鉄道輸送、トラック輸送、航空輸送の複合輸送のハブ化は、広域開発につながる可能性もある。 ・仙台エアカーゴターミナル(SACT)の取扱い
仙台空港の利用者増に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・震災前の空港利用者280万人では、空港経営は厳しいと思われることから、プロジェクトにおいて、いかに空港利用者を増やしていくかの議論が必要である。 ・今後、誘致が見込まれるLCCの需要予測をどのように見込むべきか。 ・空港の周辺開発の方向性と相乗効果等も検討すべきである。 ・国際化において、仙台空港の差別化(例:24時間化等)が必要である。
今後の調査(実現可能性調査(FS)等)の進め方・内容	<p>○基礎データの収集・把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災前・後の航空事業及び駐車場事業の収支の整理等を国に求めていく。 <p>○前提条件等の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実現可能性調査(FS)を行うに当たり、前提条件の整理が必要である(国へ一定の条件・方向性の提示を求めていく)。 <p>○海外の事例検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外での空港民営化の背景や因果関係も含めた事例収集・研究を行う。 事例:イギリス ロンドンシティ空港、ガトウィック空港 オーストラリア メルボルン空港、ゴールドコースト空港 <p>○民営化に対するニーズ把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の今後の航空動向(LCCの動向等)や空港へのニーズ把握 ・空港関連の物流動向や空港へのニーズ把握 ・投資ニーズ把握 <p>○民営化の方向性等の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい仙台空港の民営化の方向性 ・想定されるスキームと事業範囲 ・実現に向けて検討すべき課題等
民営化に当たっての整理点	<p>○コンセッションの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共性の担保 ・経営の自由度の範囲(発着料の設定等) ・追加投資時の取扱い ・公共投資計画の取扱い ・震災等の災害リスクへの対応 ・外資の取扱い ・契約解除時の取扱い(解除要件、対価等) など